

## 陸上自衛隊が導入するV-22オスプレイの安全性【概要】

### 1. オスプレイの「機体の安全性」に関する基本的な考え方

- オスプレイは、米国政府が安全性・信頼性を確認した上で量産。
- 政府は、米オスプレイの普天間飛行場への配備に先立ち独自に安全性を確認。
- 米オスプレイと同型機の陸自オスプレイを導入することを決定した際、改めて、安全な機体であることを再確認。

### 2. 最近の米オスプレイの事故／事故率の上昇に対する防衛省の認識

#### (1) 最近の米オスプレイの事故

##### A：沖縄県名護市沖における事故（平成28年12月）

- 事故原因は、困難な気象条件下で空中給油訓練を行った際の操縦士のミス。

##### B：豪州における事故（平成29年8月）

- 事故原因は、着艦の際に米オスプレイ自体の吹きおろしが船体に当たって跳ね返り、オスプレイのローターに戻ってきたことによる。
- 機体、パイロット、搭乗員に問題なし。

##### C：シリアにおける事故（平成29年9月）

- 夜間の低視界での着陸中にハードランディング。米側は、引き続きオスプレイの機体の安全性・信頼性に問題はないとの立場。

#### (2) 事故率の上昇（米海兵隊MV-22オスプレイ）

- 平成29年9月末時点で3.24であり、平成28年9月末時点の2.62より上昇。上記(1)の事故が事故率の上昇に起因。

### 3. 機体の安全性の再確認

- 防衛省としては、オスプレイの機体の安全性には問題がないと引き続き評価。
  - その上で、米オスプレイの事故等が続いたことで、佐賀県の皆様にオスプレイの安全性に不安の声があることを十分認識。
- ⇒ 陸自オスプレイの操縦・整備要員の一部が米海兵隊の教育課程を修了したことを踏まえ、改めて機体の安全性を再整理。

- ① 民航機も採用している確立された技術を導入し、操縦士の負荷が適切に軽減された操縦性能
- ② 十分な運用実績を有し、安全性が確認されているエンジン
- ③ 十分な整備が可能であり、高い信頼性が確認されている「ナセル」
- ④ 飛行に重要な各種機能は補完性が幾重にも確保されており、万が一の際もバックアップ可能
- ⑤ 高度にシステム化されて、人的ミスが起きる可能性を局限している機体整備

《小括》

- オスプレイの機体は、十分な安全性を確保していると評価。
- 更に、機体納入後、防衛大臣が定める安全基準を満たすか技術的な検討を行い、機体の安全性を確認。

#### 4. 陸自オスプレイの人的ミスを低減する陸上自衛隊の方策

- ① 空中給油や発着艦に係る訓練を有明海や佐賀県上空で実施せず
- ② オスプレイを運用するまでに十分に経験を有する要員を養成
- ③ 安全管理を確実にする教育訓練を実施

#### 5. まとめ

- 機体の安全性は問題ないと評価、人的ミス低減のため、要員の教育訓練に万全を期す。
- 佐賀空港において陸自オスプレイを安全に運用するため、不断に情報収集・検討を行い、安全管理策を随時更新。新たな情報等は、佐賀県の皆様にも丁寧にご説明。